

## 1 趣旨

国立青少年教育振興機構が提供する法人ボランティア養成カリキュラムに基づいて実施し、青少年教育施設で活動できるボランティアを育成する。

## 2 期日

令和5年5月20日（土）～21日（日）

## 3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

## 4 参加者

44名（高校生9名、専門学校生1名、短期大学生6名、大学生28名）

## 5 主な活動内容

### （1）青少年教育の理解（講義）

常磐大学の松橋義樹氏を講師にお招きし、青少年教育の発達段階に応じた体験活動の効果や意義について講義をいただいた。参加者からは「青少年教育の現状や課題について知ることができ、体験活動が必要不可欠であることが分かった」などの感想が寄せられた。



### （2）青少年教育施設におけるボランティア活動（講義）

磐梯青少年交流の家のボランティア活動内容について、磐梯青少年交流の家の先輩ボランティアが進行して、参加者が話を聞く時間を設定した。参加者からは「先輩ボランティアと話したり一緒に活動したりして、ボランティアをやる気持ちが強くなった」等の感想が寄せられた。

### （3）ボランティア活動の技術（演習）

演習では、野外炊飯倉庫内の用具の配置や釜戸を使って薪に火を付ける際のポイントや安全上の留意点等について説明を受けた後、野外炊飯棟でカレー作りを行った。参加者からは「ただ外でカレーを作るのではなく、どのポイントに気を付けるのか、考えながら作ることができた」などの感想が寄せられた。



## 6 事業の成果と課題

### （1）成果

- 先輩ボランティアから、ボランティア活動についての体験談や活動を通して学んだことを聞くことで、参加者はボランティア活動についての具体的なイメージをもち、今後のボランティア活動への意欲を高めることができた。
- アイスブレイクや野外炊飯等の演習で参加者同士が一緒に活動する時間を十分に確保する構成にしたため、初めて会った参加者同士がスモールステップでコミュニケーションをとることができた。



### （2）課題

- 野外炊飯を経験している参加者も多く、参加者の中には動画には確認しながら活動をする者もいた。そのことによって成功体験はできるが、失敗から学ぶ機会があまりなかった。ボランティアとして事業に携わった際に、児童のつまづくポイントを自ら体験できるように活動を意図的に設定したい。